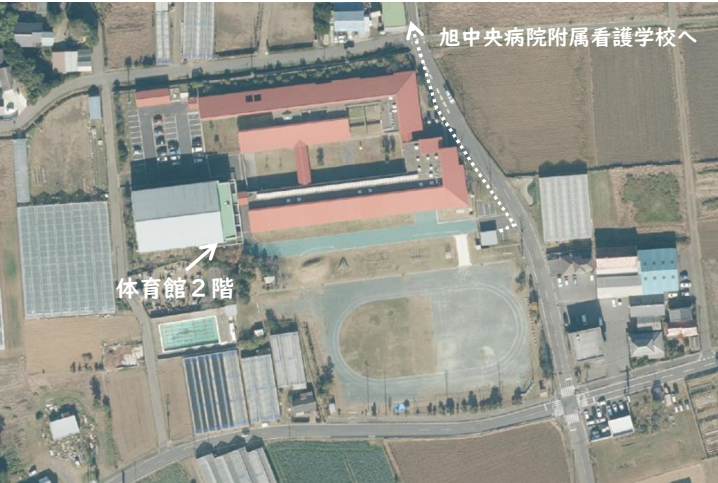
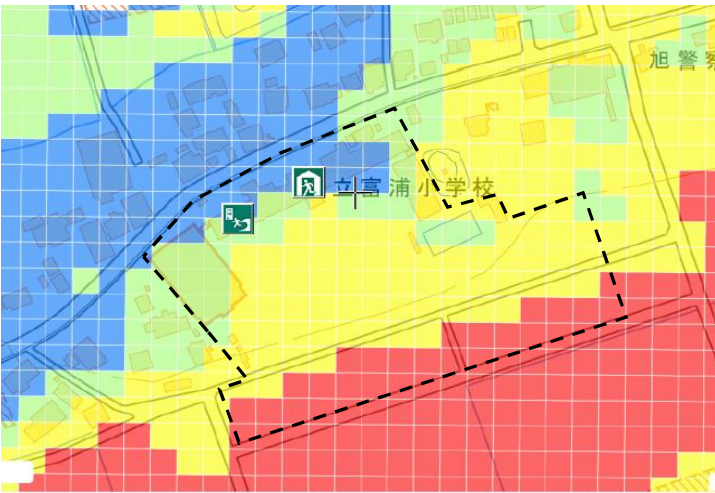
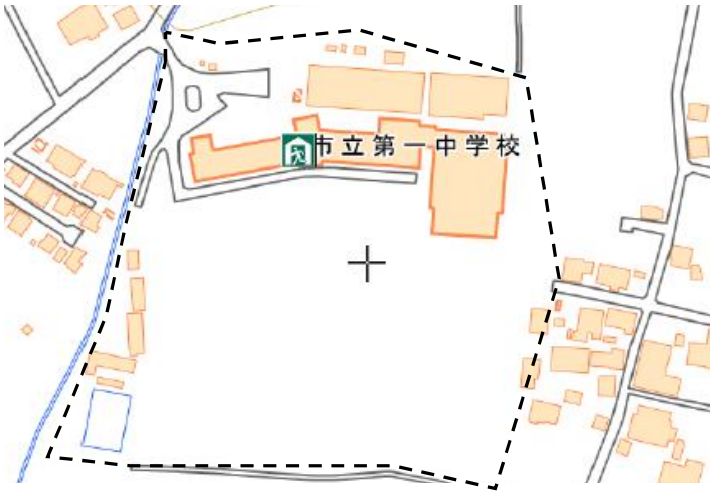


各学校の立地と避難計画について

	【富浦小学校】	【矢指小学校】	【第一中学校】
立地・周辺環境 旭市地域防災計画（R7.3） 旭市津波ハザードマップより※1	・土地標高：約6.0m ・津波避難拠点（大津波警報10m以下の場合） ：管理教室棟2階以上（標高：約10.1m） 収容人数※2：1,050人 ※屋上へ直接上がれる避難階段（屋外）がある ・海岸からの距離：約1.6km ・ハザードマップ：津波浸水想定区域（0.8m～2.0m）	・土地標高：約6.1m ・津波避難拠点（大津波警報10m以下の場合） ：体育館2階（標高：約11.0m） 収容人数：120人 ※体育館2階ミーティングルーム・ギャラリー部分） ・海岸からの距離：約1.0km ・ハザードマップ：津波浸水想定区域（0.5m～0.8m）	・土地標高：約7.8m ・避難場所：学校全体（建物の指定は無い） ・海岸からの距離：約2.6km ・ハザードマップ：津波浸水想定区域外
平面図			
津波浸水予想図 大津波警報10m（施設なし） の場合 ※ちば地震被害想定HPより 50cm未満 50cm～80cm 80cm～200cm 200cm以上			

各学校の避難方法（児童生徒が在校中の場合）

津波警報の場合 想定最大高さ（高いところで） 1 m 超え 3 m 以下	富浦小学校屋上へ避難	矢指小学校体育館2階へ避難	
大津波警報の場合 想定最大高さ（高いところで） 3 m 超え	富浦小学校屋上へ避難 状況に応じて 第一中学校へ避難 ※移動距離：約2.5km	旭中央病院附属看護学校（5階）へ避難 ※移動距離：約2.0km	第一中学校校舎4階へ避難

※ 1 旭市津波ハザードマップは、千葉県が気象庁の津波警戒レベルにあわせて作成した津波浸水予想図のうち、「大津波警報10m・防潮施設なし（水門解放）」の場合に予想される、市内の津波浸水区域を示したものです。

※ 2 収容人数は一時滞在が可能な人数のことで、指定避難所における長期滞在の収容人数とは異なります。

(仮称)旭地域南小学校の候補地について

	基本方針 案1	基本方針 案2																																								
候補地	矢指小学校	第一中学校																																								
航空写真 敷地																																										
敷地面積	23,032㎡	28,929㎡																																								
1.学校間距離	・富浦小→矢指小 距離3.4km 徒歩46分 車5分 富浦学区からスクールバスの運行を検討	・富浦小→一中 距離2.4km 徒歩33分 車4分 ・矢指小→一中 距離2.5km 徒歩35分 車5分 富浦学区、矢指学区からスクールバスの運行を検討																																								
2.駐車場台数	北側 38台程度 東側 5台程度 ※行事の際は必要に応じてグラウンドまたは日の出山公園駐車場を利用	北側 20台程度 東側 24台程度																																								
3.改修内容目安	・体育館 空調設備の設置 ・駐車場整備 ・教室棟増築(必要に応じて)	小学生の発達段階や学校運営に合わせた改修が必要 例)普通教室や特別教室の仕様変更、トイレや手洗い場等の水回りの改修、階段手すりの安全対策、バリアフリー化、遊具設置 等																																								
4.統合時期目安 (最短)	2030年(令和12年)	2036年(令和18年) 以降 ※ただし、中学校の再編状況によるため、第一中学校が空く見通しは不透明																																								
5.その他	4年後(R12)の児童数推計 131人 <table><tr><td></td><td>1年生</td><td>2年生</td><td>3年生</td><td>4年生</td><td>5年生</td><td>6年生</td><td>合計</td></tr><tr><td>富浦小</td><td>9</td><td>16</td><td>13</td><td>11</td><td>8</td><td>7</td><td>64</td></tr><tr><td>矢指小</td><td>12</td><td>9</td><td>13</td><td>11</td><td>5</td><td>17</td><td>67</td></tr><tr><td>合計</td><td>21</td><td>25</td><td>26</td><td>22</td><td>13</td><td>24</td><td>131</td></tr><tr><td>クラス数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>6</td></tr></table> 特別支援学級を除く		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	富浦小	9	16	13	11	8	7	64	矢指小	12	9	13	11	5	17	67	合計	21	25	26	22	13	24	131	クラス数	1	1	1	1	1	1	6	・新たな通学路の設定に伴い、低学年児童の通学も考えた安全対策を一から検討、実施する必要がある。 ・武道場や特別教室など使わない教室等が発生するため、活用方法の検討が必要になる。 ・敷地内に余剰地が発生し、教職員の管理の負担が増える。
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計																																			
富浦小	9	16	13	11	8	7	64																																			
矢指小	12	9	13	11	5	17	67																																			
合計	21	25	26	22	13	24	131																																			
クラス数	1	1	1	1	1	1	6																																			
備 考	既存の小学校を活用することで、通学路や学校周辺の安全対策を効率的に進めることができるほか、早期の学校統合による望ましい教育環境の提供ができる。	児童の通学の安全確保に向けた対策を要することや、児童の望ましい教育環境で学ぶまでの期間が長期化する可能性がある。																																								

地区別児童分布イメージ【富浦小学校・矢指小学校】(令和8年)

